

2 学年通信

新宮町立新宮東中学校
令和7年9月1日 第43号
文責:江頭 俊輔

〔夏休みは何をしましたか！？鬼滅の刃の映画は見たか？〕

さて、夏休みはどのように過ごしたでしょうか。(江頭は夏休みのほとんどを発熱で寝込んでおりました。)私がこの夏休みに最も楽しみにしていたのは、言うまでもなく『劇場版鬼滅の刃無限城編第一章』です。(もちろん、江頭は寝込んでいたので、見ることができていません。ネタバレになるので鬼滅の刃の話題は江頭の周辺ではしないでください。)今回は、鬼滅の刃の私が最も好きなシーンを紹介して、みなさんの2学期の抱負にしてほしいと思っています。(みなさんの好きなシーンはどこですか？近くの人と話し合おう！)

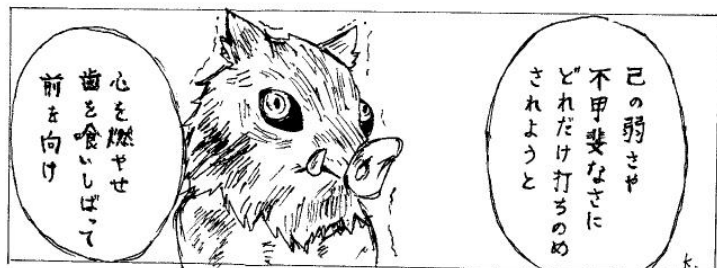


私が最も好きなシーンはこちらです。(左図)これも卒業生に描いてもらいました！とても上手ですね！

鬼滅の刃の第1回めの劇場版である『無限列車編』に登場する煉獄さんの台詞です。煉獄さんは強い鬼と闘って、瀕死の重傷を負います。このときは未熟だった炭次郎は、何もできなかった自分達の無力さを恥じ、悲しみに暮れます。そんな鬼殺隊のメンバーに煉獄さんが最後の想いを語りかける場面です。

ぐっとくるのは、『己の弱さや不甲斐なさ(ふがいなさ)にどれだけ打ちのめされようと、心を燃やせ。齒を食いしばって前を向け。』という厳しくもあり、これからの未来に期待する温もりも感じる言葉です。

私も中学生時代には、大切なことは後回しにするタイプだったので、宿題もしないで、ゲームを



してみたり、引っ込み思案なタイプだったので、お世話になったバスの運転手の方や、食事をしたレストランの人に大きな声であいさつできなかったり、想いはあるのになかなか行動に移せないタイプだったので、教室に落ちているゴミを拾えなかったり、、、自分自身の不甲斐なさを実感することが多かったです。中学生時代は特に自分の短所やコンプレックスに感じる部分にばかり気持ちが向いてしまうことが多いと思います。そんなときこそ『心を燃やせ。齒を食いしばって、前を向け。』です。このあとに煉獄さんの言葉は『君が足を止めて蹲って(うずくまって)も時間の流れは止まってくれない。共に寄り添って悲しんではくれない。』と続きます。当たり前ですが、とても深い言葉です。

さて、煉獄さんの言葉から、2学期に頑張りたいことを伝えたいと思います。2学期は、中間考査→修学旅行→新人戦→ひがし文化週間→生徒会役員改選→実力テスト→期末考査と学校行事が盛りだくさんです。修学旅行やひがし文化週間などの学校行事では、学級やブロックで協力して取り組むことで、よりキラキラした日常となります。3回のテストでは、日頃の学習の成果が試されます。行事や部活動では、真剣に取り組むと、互いに真剣だからこそ、仲間とぶつかることもあります。学習をはじめ、理想と現実の差に悩んだり、なかなかうまくいかないこともあるでしょう。そんなときに思い出してほしいです。『胸を張って生きろ。心を燃やせ。齒を食いしばって前を向け。』2学期も一緒に頑張りましょう。